

受験番号	
------	--

令和3年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

支援学校高等部 地理歴史(世界史) 解答用紙 (4枚のうち1)

5

得点	
----	--

(1)	①	ア 622	/	イ メディナ	/	ウ ヒジュラ (聖遷)	/	
	②	b	/					
	③	ムハンマドはメディナでムスリムの共同体 (ウンマ) を建設した。このウンマを率いたムハンマドは、630年にメッカを征服し、さらにアラビア半島を統一する。こうして、それまで国家のなかったアラビア半島がイスラーム教のもとで統一されることになるが、その出発点こそがこのイスラーム勢力の基盤となったウンマが建設されたヒジュラであり、まさにここから、イスラームの時代が始まるのである。						/
	④	ス ン ナ 派 は 、 ム ハ ン マ ド の 言 行 を 生 活 の 規 範 と し 、 ウ マ イ ヤ 朝 や ア ッ バ ー ス 朝 の カ リ フ を 正 統 な 指 導 者 と 認 め る 多 数 派 で 、 シ ー ア 派 は 、 第 4 代 カ リ フ の ア リ ー の 子 孫 だ け に 政 治 的 指 導 権 が あ る と 主 張 す る 少 数 派 で あ る 。						/
	⑤	ウマイヤ朝では、支配者であるアラブ人はジズヤ (人頭税) やハラージュ (地租) が免除され、被征服者の異民族には税が課された。アッバース朝ではアラブ人の特権が失われ、イスラーム教徒であれば異民族でもジズヤが免除となり、アラブ人でも征服地に土地を所有すればハラージュが課せられるようになった。						/

受験番号	
------	--

令和3年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

支援学校高等部 地理歴史(世界史) 解答用紙 (4枚のうち2)

5 (続き)

--

--

(2)	①	ア	アルハンブラ宮殿	/	イ	グラナダ	/			
	②	ア	トンプクトゥ	/						
		イ	取引の当事者どうしが互いに姿を見せず言葉も交わさず塩と金を交換した					/		
	③	マタラム王国			/					
(3)	①	A	メフメト2世	/	B	セリム1世	/	C	スレイマン1世	/
	②	神聖ローマ帝国を支配するハプスブルク家に対抗するフランスと同盟関係となり、フランス商人に領内での居住と通商の自由を認めた。								

--

受験番号	
------	--

令和3年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

支援学校高等部 地理歴史(世界史) 解答用紙 (4枚のうち3)

5 (続き)



	① ニコライ 1 世	/	② ルーマニア	/	
(4)	③	<p>ロシアは、オスマン帝国との戦争に勝利し、1878年のサン=ステファノ条約でブルガリアを保護下におくことを認めさせ、バルカン半島への勢力拡大に成功した。しかし、イギリスとオーストリアがこれに抗議したため、ドイツ首相のビスマルクがベルリン会議を主催して諸国間の調整をはかった。その結果、サン=ステファノ条約は破棄され、新たに結ばれたベルリン条約により、イギリスはキプロス島を獲得、オーストリアはボスニア・ヘルツェゴヴィナの統治権を獲得し、セルビア、ルーマニア、モンテネグロの独立が承認され、ロシアが影響力をもつブルガリアは領土を大幅に縮小された上で、オスマン帝国内の自治国にとどまった。</p>			
	④	<p>オスマン帝国の属州であったエジプトは、ナポレオン率いるフランス軍の侵入を受けたが、オスマン帝国はイギリス海軍と結んでこれを撃退した。その後、民衆の支持を得て実権を握ったムハンマド=アリーは、オスマン帝国からエジプト総督に任命された。ムハンマド=アリーは、マムルーク勢力を一掃し西欧式の強力な軍を組織するとともに、近代的な教育制度を整え、また近代的な工場を建設し農業を振興するなど、富国強兵策を採用した。また、ムハンマド=アリーは、シリアの領有を要求しオスマン帝国と戦い勝利した。しかし、エジプトの強大化をおそれた列強が干渉し、1840年のロンドン会議で、ムハンマド=アリーのエジプト・スーダン総督の世襲は認められたが、シリアの放棄、軍備の縮小などが強制された。エジプトはその後、事実上オスマン帝国から自立し、鉄道の建設などの近代化政策をおしすすめ、スエズ運河を開削した。しかし、これらの経費のために、国家財政は破綻し、スエズ運河会社の株をイギリスに売却して運河の管理権を譲り、国家財政もイギリスとフランスの管理下に置かれた。こうした列強の内政干渉に反対して、1881年に、この運動に呼応して陸軍将校のウラービー=パシャが反乱を起こすと、イギリスは単独でエジプトを軍事占領し、エジプトは事実上イギリスの保護国となった。</p>			

受験番号	
------	--

令和3年度大阪府公立学校教員採用選考テスト

支援学校高等部 地理歴史(世界史) 解答用紙 (4枚のうち4)

5 (続き)

	⑤ クリミア戦争	/
(4)	⑥	<p>バルカン半島では、パン=スラヴ主義を唱えるロシアと、オーストリアが勢力拡大をねらって対立していた。1908年、オスマン帝国内で青年トルコ革命がおきると、ブルガリアが独立を宣言し、オーストリアは管理下にあったボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合した。ロシアは、オーストリアのバルカン半島進出に対抗して、1912年、セルビア、モンテネグロ、ブルガリア、ギリシアをバルカン同盟に結束させた。同盟諸国は、イタリア=トルコ戦争に乗じてオスマン帝国に宣戦し、この第1次バルカン戦争でバルカン半島内のオスマン帝国領土の大半を奪った。しかし、獲得した領土をめぐるブルガリアと他のバルカン同盟国間で第2次バルカン戦争がおき、やぶれたブルガリアはドイツ、オーストリア側に接近した。このように、バルカン諸国はそれぞれ特定の列強と結びついていたことから、バルカン半島での勢力関係の変動は列強間の対立をさらに悪化させた。このため、バルカン半島は「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれるようになった。</p>